

5-3 海岸利用の現況と課題

1) 海辺とのふれあい・環境学習の空間提供

- ◆ 北海道の夏は短く、海水浴場や海浜公園、海辺のキャンプ場などの利用施設はその短い夏を満喫しようと大勢の人々で賑わいます。利用者からは安全できれいな利用施設が求められており、ゴミ水質の管理、砂浜の侵食対策、事故防止の啓発など総合的な管理・整備が必要となります。

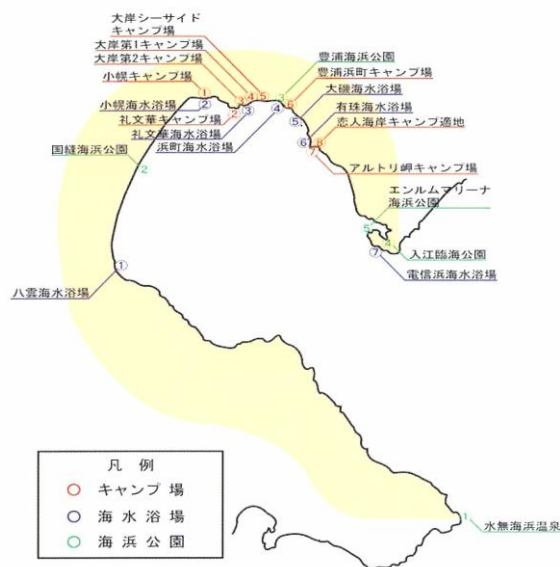


図- 24 渡島東沿岸の主な海水浴場、海浜公園、キャンプ場

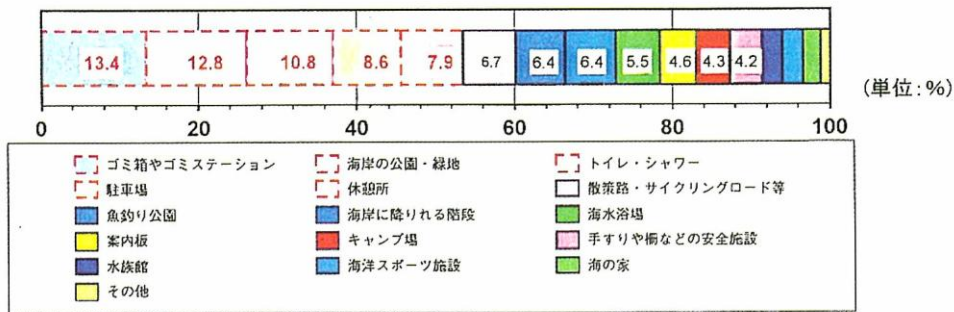


写真- 32 豊浦海浜公園（豊浦町）

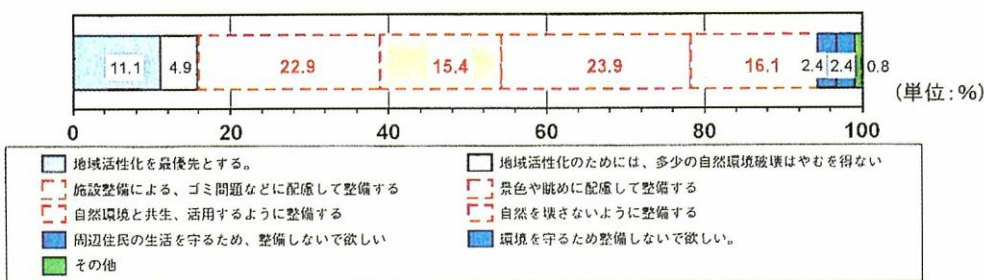
◆ 渡島東沿岸住民アンケートによると、「整備して欲しい利便施設は」ではゴミ箱やゴミステーション、海岸の公園・緑地、トイレ・シャワー、駐車場が多く、「利便施設の実備」では、自然環境と共生・活用、ゴミ問題に配慮、景色や眺めに配慮するという意見が多くなっています。

自然環境・景観に配慮した利用施設を整備し、人々が安全に浜辺とふれあい、同時に海辺の自然環境を学ぶことのできる空間を提供していくことが重要です。

整備して欲しい利便施設



今後利便施設を整備していくことについて



市町村名	海水浴場名	開設状況		利用者数 (人)			水難事故		その他 身体事故 発生件数
		期間	日数	総数	1日平均	1日最多	発生件数	水死者数	
室蘭市	電信浜児童遊泳場	7/24~8/11	19	7,171	377	1,063	0	0	5
伊達市	有珠海水浴場	7/17~8/22	37	63,061	1,704	20,200	1	0	8
虻田町	大磯海水浴場	7/10~8/9	31	1,548	50	219	0	0	0
	(3市町・3海水浴場)			71,780	2,131	21,482	1	0	13
	計(10支庁・37市町村・60海水浴場)			2,729,027	65,016		10	2	346

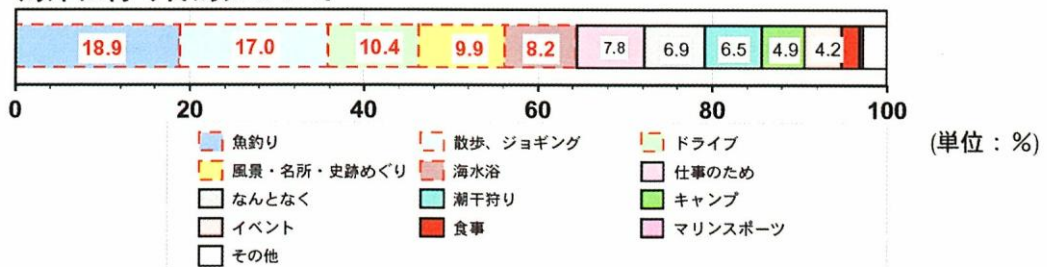
順位	海水浴場名	開設日数	平成11年度利用者数
1	石狩浜海水浴場 (石狩市)		
2	小樽ドリームビーチ (小樽市)		
3	川下海水浴場 (浜益村)		
4	蘭島海水浴場 (小樽市)		
5	銭函海水浴場 (小樽市)		
6	元和台海浜公園 (乙部町)		
7	はばろサンセットビーチ (羽幌町)		
8	浜中海水浴場 (留萌市)		
9	有珠海水浴場 (伊達市)		
10	函館湯川海水浴場 (函館市)		

2) トイレ・駐車場などの利便施設の不足

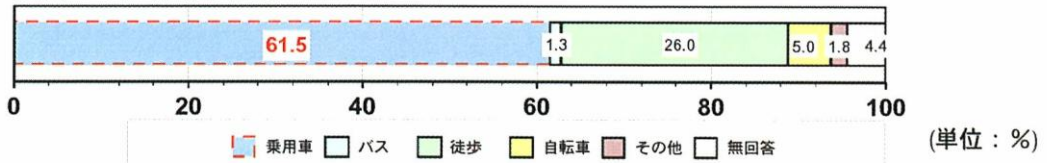
- ◆ 「海岸に行く目的」では魚釣り、散歩・ジョギング、ドライブといった1つの施設を利用するものではなく、移動しながら行うレクリエーションが多い状況となっています。また、乗用車を利用して海岸へ行く人が多いことから、トイレ・駐車場などの利便施設が不足していると感じている住民が多くいると思われます。
- ◆ 渡島東沿岸住民アンケートによると、「海岸に行く目的」では魚釣り、散歩・ジョギング、ドライブ、海水浴、名所めぐりが多く、「海岸で不満に思うこと」ではトイレ・駐車場が不足していると感じています。

背後地の利用形態に沿った利便施設の整備を図る必要があります。地元市町村との連携を図ります。

海岸に行く目的について



海岸へ行く交通手段



海岸で不満に思うことについて

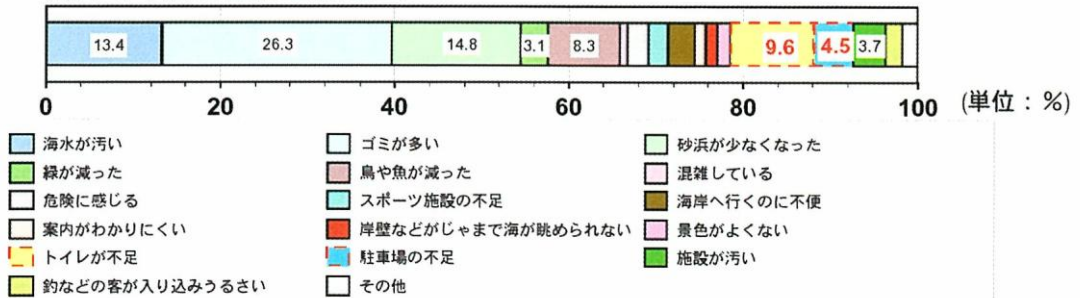


写真- 33 絵鞆臨海公園 (室蘭市)

3) 砂浜・水辺に近づきやすい施設の工夫

- ◆ これまでの海岸保全施設の整備は自然の脅威からの「防護」を主な目的としてきたため、背後地から砂浜・水辺へのアクセスは容易ではありません。



写真- 34 護岸から砂浜への階段（長万部町）

- ◆ 高齢者や身障者などの交通弱者、子供たちにも配慮し、スロープや誘導サイン、安全設備などの整備が必要となり、公共交通機関や幹線道路からのアクセスも確保しなくてはなりません。
これからは人々の海辺とのふれあいや、水辺の魅力を発見できるように、砂浜・水辺に近づきやすい施設の工夫が必要です。

4) 釣り場の施設整備と安全対策

- ◆ 住民アンケートによると、魚釣りが最も多い海岸利用の目的となっています。最近は女性の釣りファンも増え、漁港などでは家族で魚釣りを楽しむ光景が増えています。しかし、北海道における水難事故の行為別水難死者数は海での「魚とり・釣り」が最も多い状況であり、安全対策は不可欠なものです。
- ◆ 最近では漁港に釣りのためのデッキの設置や魚釣り公園なども作られてきています。



写真- 35 海浜公園－釣り場施設（豊浦町）

渡島東沿岸住民アンケートによると、「海岸に行く目的」では魚釣りが最も多い目的です。

大人だけでなく子供や家族が海岸を安全で気軽に楽しめるような施設の整備を心がける必要があります。

海岸に行く目的について

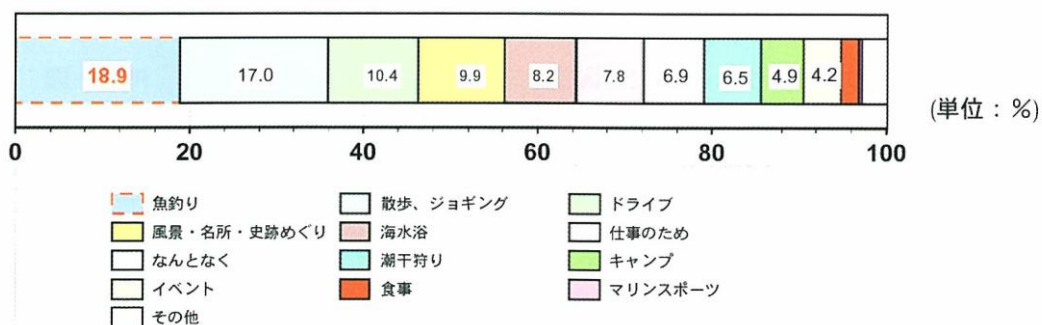
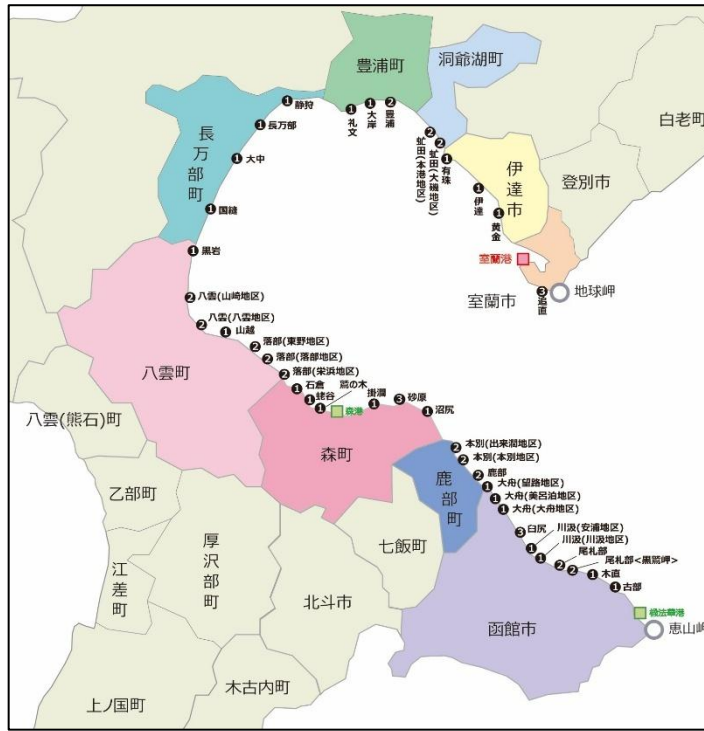


図- 25 マリンツーリズムの推進方向

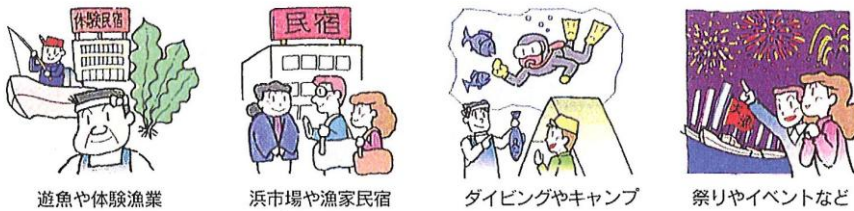
5) 都市部と漁村地域との交流・連携の推進

- ◆ 渡島東沿岸には38の漁港があり、平均すると約6kmごとに漁港が設置されていることとなります。平成12年度からはプレジャーボートの漁港利用も始まり、漁業者以外の漁港利用が始まっています。これからは都市部の人々の住民参加型プロジェクトへの積極的な参加などによって都市・漁村地域の住民の交流を深めていくことが大切です。

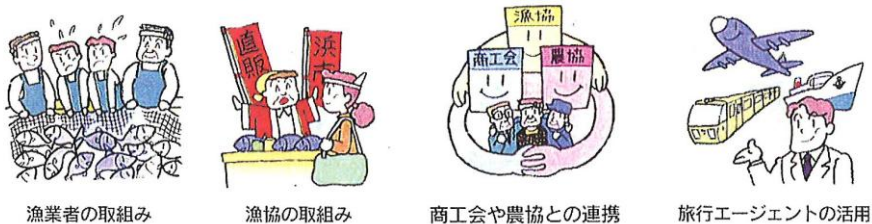


- ◆ 人々の交流や環境対応のプロジェクトとして「マリンツーリズム」「豊かな海と森づくりネットワーク構想」などがあります。都市と漁村地域の住民交流や関係機関の連携を深め、漁港・漁村地域を含めた海岸利用を推進し、地域の活性化につなげる必要があります。

◇マリン・ツーリズムを推進する取組みには、様々な手法があります。



◇マリン・ツーリズムの取組みの形態も、様々な段階とケースがあります。



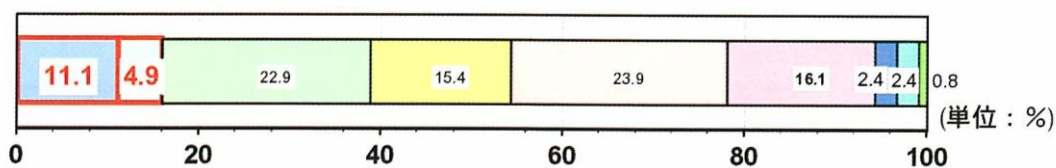
6) 自然体験型観光やイベントによる海岸利用の促進

沿岸地域では各市町村や団体が地域の活性化や住民のふれあいを目的に様々なイベントを行っています。その中には海の自然や水産資源、海辺や漁港を利用したイベント・祭りなどがあります。海浜温泉などの地域の特性を生かした自然体験型観光やイベントにより海とふれあう機会が増えること、また、地域観光資源のネットワーク化や冬期利用についての検討も必要です。



渡島東沿岸住民アンケートによると、「利便施設の整備について」では、地域活性化に対する意見も多くあります。

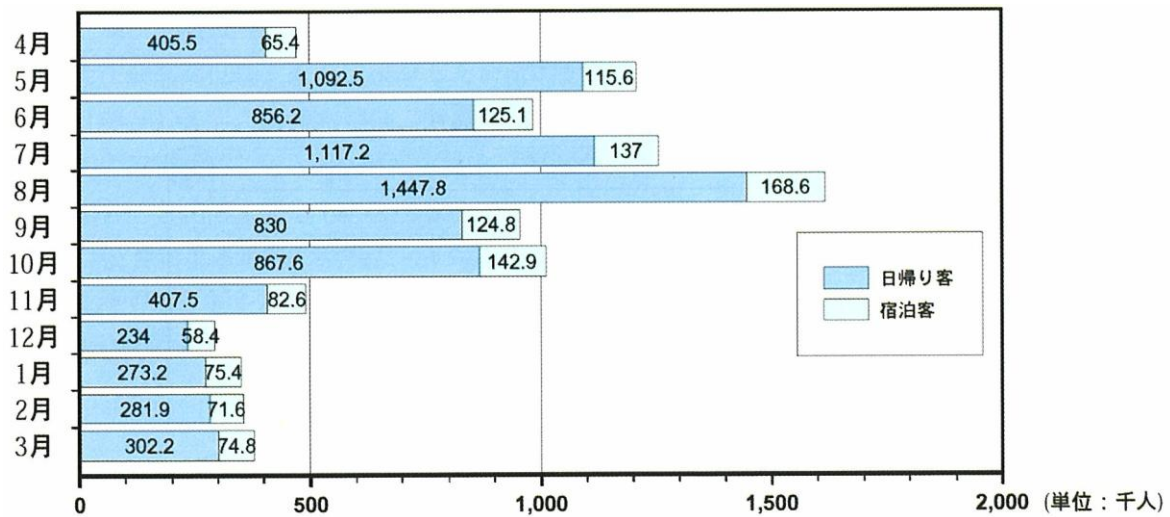
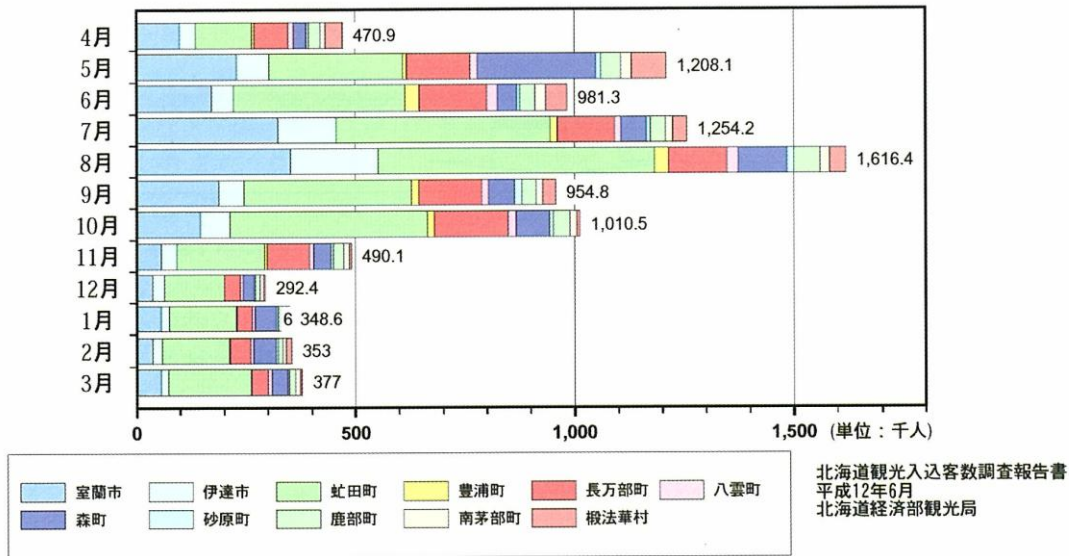
今後利便施設を整備していくことについて



- 地域活性化を最優先とする。
- 施設整備による、ゴミ問題などに配慮して整備する
- 自然環境と共生、活用するように整備する
- 周辺住民の生活を守るため、整備しないで欲しい
- その他
- 地域活性化のためには、多少の自然環境破壊はやむを得ない
- 景色や眺めに配慮して整備する
- 自然を壊さないように整備する
- 環境を守るため整備しないで欲しい。

観光入込客数からは洞爺温泉のある虻田町に観光客が集中していることや、季節では春から秋にかけて利用の多いことがわかります。日帰り・宿泊の割合は日帰りが圧倒的に多くなっています。

人々の海への思いや海岸環境意識の深まり、沿岸地域の活性化につながるように各種イベントなどによる海岸利用の促進が必要です。



図一 3 4 渡島東沿岸月別・旅行形態別観光入込客数 (H 1 1 年度)

北海道観光入込客数調査報告書
平成12年6月
北海道経済部観光局